「高知の未来の授業を創る」推進プロジェクト　いつでも、どこでも、だれでも　学べる場へ！

授業づくり講座　特別の教科　道徳

室戸市立吉良川小学校【教材研究会：令和２年１０月２０日　授業研究会：令和２年１１月１８日】

吉良川小学校で行われた2回の授業づくり講座では、
延べ134名の先生方が共に学びを深めました。

他教科のレポートも掲載中！
HPをご参照ください。

発行:令和2年 12月　東部教育事務所

「考え、議論する」道徳科の授業実践を目指す！

学習指導要領　内容項目の指導の観点

【相互理解、寛容】　小学校第5学年及び第6学年
自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心をもち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。

【主題名】　互いの違いを受け入れる心　B(11)【相互理解、寛容】
【教材名】　「ブランコ乗りとピエロ」(日本文教出版「小学道徳　生きる力　6」)
【あらすじ】　サーカスの団長であるピエロは、実力はあるが自己中心的なブランコ乗りのサムに対して団の仲間とともに腹を立てていた。しかし、サムが誰よりも必死な努力をしている様子を見たピエロはサムを受け入れ、自分にも目立ちたい思いがあったことを認めたうえで、これからはサーカス団のために力を合わせてくれるようサムを諭す。2人は心を通い合わせ、サーカスの最終日は客席も団員も笑顔の大成功で幕を閉じた。

教材研究会

授業者　5年担任
北川　朋佳　教諭

試行錯誤しながら、新しい指導方法にチャレンジできました！

本時のねらい

考えが違う者たちが仲良くするために大切なことについて考えることを通して、互いに分かり合い、理解し合い、協力しようとする態度を育てる。

指導の要点

自分の心の中にも相手と同じように身勝手に考えてしまう弱さがあることを自覚し、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重することで違いを生かしたより良いものが生まれるといった良さや、違いを受け入れる心について考えを深めさせる。

授業を通して引き出したい児童の考え

・自分も相手と同じ弱さをもっているから、相手ばかりを責めないで、認め合うことが大切だ。
・自分の意見ばかり言うのではなく、相手の意見を聞き、良いところを取り入れたい。
・人によって考え方は違うけれど、それぞれの考えを受け入れることで、より良いものができる。

授業者の提案

①自分自身との関わりで考えるために	②多面的・多角的な視点で捉えるために	③主題に迫るために
・教材前半(ピエロが腹を立てる場面まで)を範読したところで、「自分なら仲良くするか」を思考させる。 ・ネームカードを活用し、討論型で考えを述べさせる。	・それぞれの立場の意見を整理して板書し対比させることで、共通点や相違点など多様な視点から考えさせる。 ・ネームカードで各自の立場を示し理由を述べた後、互いに質問し合って深めていく。	問い返し (許す良さ・価値について考えを深めるために) ◆折れるのは納得しているということ？ ◆仲良くなることは、勝ち負けの問題なの？ ◆何のために仲良くする・しないの？

協議

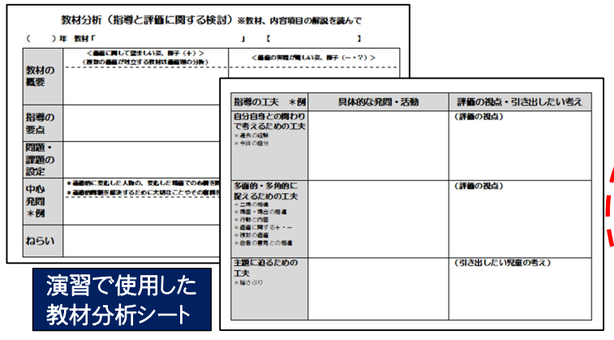
視点①
自分自身との関わりで捉え、考えを深められていたか

○ネームカードを活用した討論型授業は、自分ごととして考えるために有効だった。
▲課題は教師が与えるのではなく、範読後「考えてみたいこと」を子供に投げかけて設定することもできるのではないか。
▲教材を前半と後半で分けて提示したが、ねらいによって、視点を与えて最後まで範読した方が思考しやすい面もあるのではないか。

視点②
多面的・多角的な視点で捉え、見方を広げることができていたか

○板書は二人の考えや立場が整理され、比較しやすいものになっていた。
○教師は児童の意見を他の児童と共有し、思考を深めようとしていた。
▲「仲良くするには」という問いで【友情、信頼】の思考になってしまった。板書にも【相互理解、寛容】のキーワードが必要ではないか。
▲「仲良くするために～」という解決策でなく、「理解し合うことの良さは何か」を考えるため、問い返しで主題に迫ることが大事ではないか。

解決策でなく、相互理解の良さへの気付きを視覚的に示す



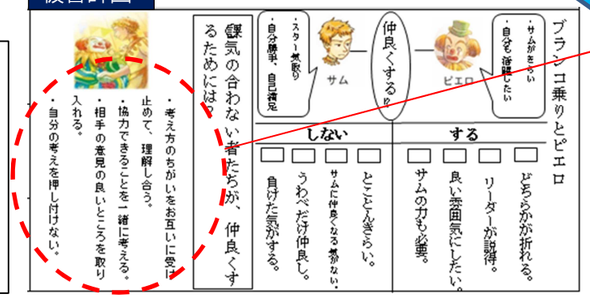
教材分析（指導と評価に関する検討）※教材、内容項目の解説を読んで

教材の概要	
指導の要点	
問題・課題の設定	
中心発問＊例	
ねらい	

指導の工夫　＊例	具体的な発問・活動	評価の視点・引き出したい考え
自分自身との関わりで考えるための工夫 ＊過去の経験 ＊今後の展望		(評価の視点)
多面的・多角的に捉えるための工夫 ＊立場の明確 ＊対話の工夫 ＊意見の共有 ＊役割の意識 ＊他者の意見との相違		(評価の視点)
主題に迫るための工夫 ＊揺さぶり		(引き出したい児童の考え)

演習で使用した教材分析シート

板書計画



授業研究会

教材研究会を受けて

◎中心発問でピエロの気持ちの変化の理由を問い、問い返しで「相互理解の良さ」へ考えを深めていく展開に修正しました。

本時のねらい

ピエロの気持ちが変化した理由を考えることを通して、意見や考えの違う相手の気持ちや考えを尊重することでより良いものが生まれるといった良さに気付き、自分と異なる意見を尊重し受け入れようとする態度を育てる。

授業者の提案

①自分自身との関わりで考えるために	②多面的・多角的な視点で捉えるために	③主題に迫るために
・教材は視点を与えて最後まで読む。 ・ネームカードでの意思表示は「自分がピエロなら仲良くするか」→「憎む気持ちが消えるか」に変更。 ・アンケートの活用。	・理解し合うことで「もっとより良いものになった」ことを板書でも視覚的に示す。	問い返し (相手を尊重し、理解し合うことの良さについて考えを深めるために) ◆ピエロは憎い気持ちを我慢したの？ ◆初日と最終日の大成功は同じ？

展開

学習活動　○主な発問　◆問い返し	実際の児童の反応
1.　アンケート結果を振り返る。 「友達と意見が分かれたときにどうしていますか。」	・意見を通す。　・話し合う。　・多数決で決める。　・納得させる。 ・理由を聞く。　・相手に合わせる。
意見が分かれたとき、どうしたらよいのだろう。	
2.　教材を読んで話し合う。 ○このお話で「えっ？」と思うところはありますか？ ・自分なら憎む気持ちが消えるかネームカードを貼り意見交流する。 ◎【中心発問】憎む気持ちが消えたピエロは何に気付いたのだろう？ ◆ピエロは憎い気持ちを我慢したの？ ◆初日と最終日の大成功は同じ？ ○考え方や意見が違うときは、どんな考え方が大切だろう？	・なぜピエロはサムを憎む気持ちが消えたのだろう？ (ネームカードの活用)※板書参照 ・サムも必死に頑張っている。　・団をバラバラにはできない。 ・協力したらスターみたいになれる。　・相手の良い所をみること。 ・初日は観客だけ大成功だったけど最終日は観客も裏方も笑顔だったから、本当の大成功。・サーカス団の心が一つになった。 ・意見を合わせて考えてみる。　・相手の意見も聞いて理解し合う。
3.　学習を振り返る。 ・新たに気付いたり考えたりしたことや友達との関わりなどを振り返り学びを交流する。	**A 児:(意見が分かれたら)もっと意見を出してなるべく賛成になる意見を考える。相手の意見と自分の意見を合わせて考える。** **B 児:友達と意見が分かれたときに納得させようとしていたけど、この授業でお互いに分かり合うことが大切だと思った。**

協議

視点①
自分自身との関わりで捉え、考えを深められていたか

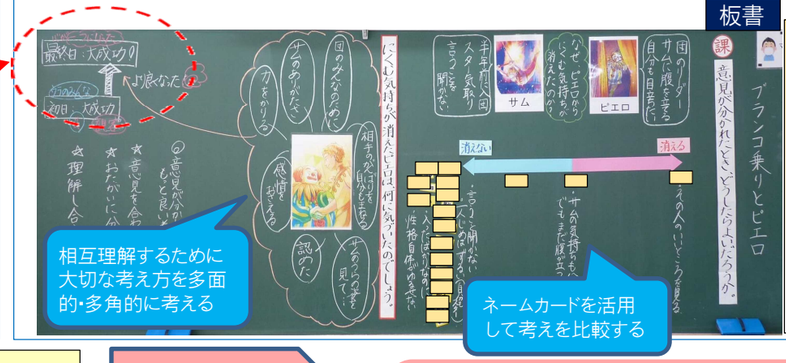
○ネームカードやアンケートの活用で自分ごととして考えられていた。
▲「憎む気持ちが消えない」と答えた児童の理由は様々であるので、「なぜ？」「どうして？」と掘り下げると議論につながるのではないか。
▲「よりよいものになる」と価値の理解をした後、もう一度自分の考えと比べ、気付きを交流させる時間をとるとよい。

視点②
多面的・多角的な視点で捉え、見方を広げることができていたか

○「ピエロが気付いたことは？」をペア対話したことで、自分と友達の考えを比べて話し合えていた。
○板書でサムとピエロを比較したことは多角的に考えられていて有効であった。
▲「最終日は笑顔になった」意見から「より良くなった」ことを押さえる活動が長かったのではないか。
▲ネームカードやペア対話、書く活動では、机間指導をして児童の意見を把握していたが、その後の意図的指名が効果的だったかは検証するとよい。

指導・助言　高知大学
森　有希　准教授より

板書



課題設定について
問い返しは有効であったが、最終の思考が解決策になってしまったのは、課題設定が「どうしたらよいのだろう。」であったことが要因でなないか。「理解し合うために大切なことは？」など、相互理解のための要素を問うのも一案である。

モデレーションの提案
複数の教師が評価の過程や結果について比較・検討を加え、解釈の仕方を調整する「モデレーション」を校内研修等で行うと評価力の向上と授業改善につながる。
※モデレーションの演習も行っていただきました。

講座の学びを生かす！

教材研究会参加後、自分の授業づくりに取り入れたことは？

参加者の声

・教材分析シートを使い、指導の要点から中心発問を考える教材研究をしてみました。
・道徳科の学習の２つのポイント「自分自身との関わり」「多面的・多角的」で思考する場面や工夫を意識して授業をするようになりました。
・ネームカードを活用しての討論型の授業に挑戦してみました。少人数の学級ですが、いつもより多様な考え方が出て、よいツールだと思いました。
・出た意見を対比させて板書に表すなど、子供と共につくる板書を意識するようになりました。
・町村の小中学校合同の道徳研修会を、授業づくり講座のワークシートや協議の視点を参考にして行いました。

講座のまとめ

授業づくりと授業改善のポイント

ポイント１　「指導の要点」「引き出したい児童生徒の考え」を明確にもち、「深い学びにつながる問い返し」を設定する。
ポイント２　「自分自身との関わり」「多面的・多角的」の視点で指導の工夫を設定し、授業の子供の姿から検証することで学習評価や授業改善に生かす。